

## 洗濯物はたたまない、しまわない



アイロンがけの次に私の嫌いな家事、それが洗濯物の片付けです。洗濯物をたたむことはおしやべりしながらでもできるし、そんなに嫌でもありませんが、たたんだものをしまつて来く、その作業が私にはとても面倒です。

私が洗濯物をたたむのは夕方から夜。家事がてんこ盛りの時間帯です。夕飯の準備をし、保育園のお迎えに行き、お稽古や塾の送り迎えもあつたりします。子どもに宿題をやらせ、夕飯を食べさせ、明日の学校の準備をさせ、お風呂にも入れなくちゃいけない。もちろん、その合間にはテレビも見なくちゃいけないし、宿題の音読をする子どもに「上手ね」なんて言いながら「聞きました」のハンコを押さなきゃいけないし、1日の話も聞かなくちゃいけません。それらの隙間を縫って、洗濯物をたたむわけです。

でも、たたんだものを床やソファに置いておくと、必ず誰かが通りがかりに崩してしまいます。わざとじゃないのはわかっていますが、「せっかくだんだのに!」とムカつ脱の一つも立つわけです。どうしても「たたむ」と「しまう」はセット。なんと

か、これをなくせないだろうか。考えに考えたところで、救世主がやってきました。

ブティック・ハンガーとかハンガーラックと呼ばれる、ハンガーをたくさんかける鉄パイプ状のラックを、ベランダとの出入り口のところを買ったのです。家事の分解（P132）で詳しくお話しますが、もともとは、子どもたちが取り込んでくれた洗濯物を床やソファに散乱させないためのものでした。ところが、実際にここに乾いた衣類をかけてみると……そのまま、ハンガーから直接着る輩が家族の中に出てきました。ナルホド、せっかくハンガーにかかっているのだから、それをわざわざたたまなくても、そのまま利用すればいいわけです。

しかも、子どもたちの衣類をハンガーにかけたまま収納できるようにすれば、私も衣類をたたまなくてすみます。洗濯物は洗いがつたらハンガーにかけて干し、そのまま取り込んで、そのまましまえばいいわけです。これならしまうのは私ではなく、子どもたちにやらせることもできそう。そうしたら夕方の、あの嫌な、嫌な、洗濯物をしまう作業から解放されるかもしれないじゃないの! これは試さない手はありません。やってみると、乾いた衣類をベランダ脇のラックまで運び、ハンガーにかけるのは保育園児にもできる作業なのでした。しかも、この作業には思わぬうれしい副産物がつきました。